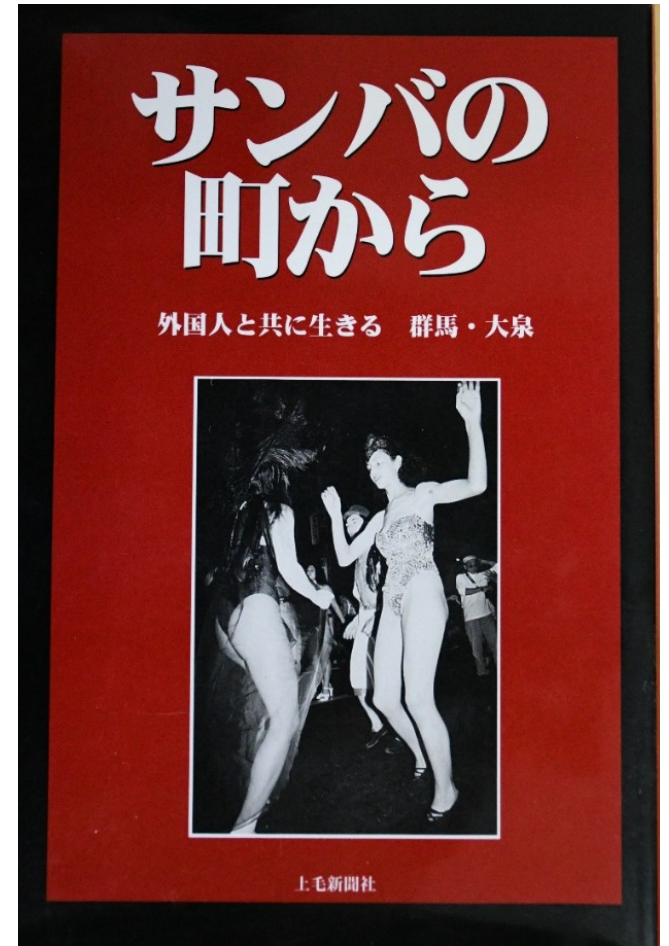


「サンバの町」 以前

戦前に台湾少年工 戦後は駐留軍



1945年以前

- 中島飛行機小泉製作所
1939年着工
40年一部完成
41年 太田飛行場完成
55000人が従事
台湾→高座海軍工廠→小泉
(台湾少年工が戦闘機を製造)



高座海軍工廠での入浴風景（神奈川県大和市・市史
編さん室蔵）

戦時中に町の骨格

- 中島飛行機→米軍→三洋電機
- 太田飛行場→ゴルフ場→
SUBARU大泉工場

鉄道敷（熊谷市～大泉町）
→ いずみ緑道
）グルメ横丁会場）



占領下 米軍が駐留

- キャンプ・ドルー

1945年～54年

基地労働者2500人

朝鮮戦争では兵站担う

54年10月 返還

55年大泉警察署沿革史から 売春婦193人 平均24歳

内訳「バタフライ」50人 「オンリー」143人

外国人向け物件…混血児7人…

自衛隊か 企業誘致か

- 金井正一町長

「これからは平和産業だ」

三洋電機の進出決定

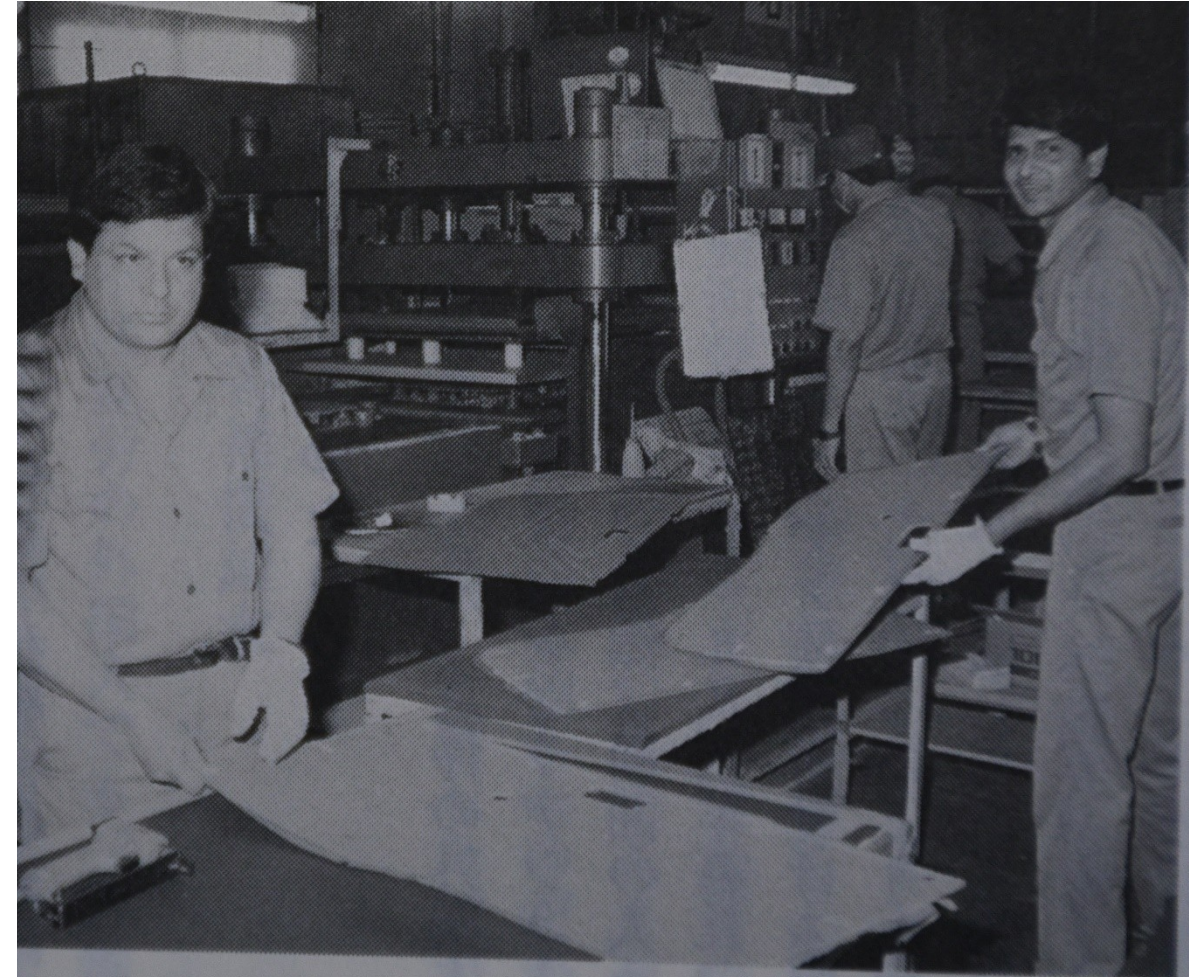
保育園 福利厚生施設

働きながら保母・教師資格取得

→東北、沖縄からの転入者

1980年代 バブル期

- 再びアジアからの労働者
パキスタン・バングラデシュ
3 K 職場に欠かせぬ労働力
結核 労災



入管法改正前、太田・大泉ではパキスタン、バングラデシュ人らが主力の工場も多かった

1990年 入管法改正

- 日系人の大量流入
「父母の国を見てみたい」
当初、帰国するつもりが大半
単身で一獲千金



外国人登録で混雑する大泉町役場の住民課窓口
(91年 8 月)

蜜月期 1990～2000年

- ・大泉町長が先頭に立って、
日系人受け入れ団体を組織
東毛地区雇用安定促進協議
会（米沢勝美会長） 40社
アパート 6 畳に 2 人まで。
エアコン、冷蔵庫を完備

単なる人手不足解消策とせず、「正社員」で雇用継続

福利厚生でバザー
観光ツアー
サンバパレード
フットサル



サンバ中止 不就学 犯罪増 リーマンショック（2008年）

全国のブラジル人学校110校 → 29校（26％）閉鎖
→ 生徒22％ 通学あきらめ

帰国支援事業 1人30万円（1家族100万円）

外国籍不就学 小学生39％ 中学生55％ 群馬1458人

三洋電機の経営危機 → パナソニックが買収 子会社化

東日本大震災（2011年）

大泉町のブラジル人（09年1月→12年12月）

5167人→3908人 1259人（24%減）

2022年 日本生まれ 日本語が不自由

30年経過 教育が常に課題

ブラジル人学校 縮小傾向

公立小中学校へ

高校進学は依然として高い壁

バイリンガルではなく

ダブルバインド

外国から「人手」だけ、都合よく持って来ることはできない

→長く暮らせば定住化 家族が増える 年老いる

親が経済的利益ばかり求めると、子は教育を受ける機会を失う

母国語がしっかり身に着かないと、自己が確立しにくい

→移住・移民 最大の犠牲者は「子どもたち」